

昭和初期の高島亀太郎(下)

——政治活動について——

川 東 蛸 弘

目 次

はじめに

第1章 昭和2年の亀太郎

- (1) 山村宇和島市長再選出と亀太郎
- (2) 宇和島市会と亀太郎
- (3) 昭和2年の県会議員選挙と亀太郎
- (4) 県議としての亀太郎

第2章 昭和3年の亀太郎

- (1) 昭和3年の衆議院総選挙と亀太郎
- (2) 市議としての亀太郎
- (3) 県議としての亀太郎

第3章 昭和4年の亀太郎

- (1) 市議としての亀太郎
- (2) 県議としての亀太郎

は じ め に

大正末,宇和島政界における政友会派と憲政会派との政争は大変激しかった。前の拙稿で¹⁾述べましたが,大正15年(1926)1月,初代宇和島市長・山村豊次郎は,前年の14年12月15日に行われた第2回宇和島市会議員選挙における選挙人名簿の誤りの責任をとって辞任,ここに混乱が始まりました。山村辞任

1) 「大正期の高島亀太郎について(下)」松山大学論集 第10巻第3号。平成10年8月。

後、次の市長がなかなか決まらず、市長空白が5ヵ月間続きました。その後、漸く15年6月7日の市会で、久野廉(陸軍大佐、元丸亀市長)が政友会の支援を受け、2代目市長に選出されましたが(26票中17票で選出)、その年10月10日の宇和島市会やり直し選挙で、政友会派系と憲政会派系の議員は、15対15の勢力伯仲となり、激しい対立・政争が続きました。その結果、久野市長は半年も持たず、12月10日に辞任、また、助役の柏木乙一郎も辞任してしまい、宇和島市政は完全に機能不全に陥りました。そこで、愛媛県は大正15年12月11日に臨時市長代理を宇和島に送り、宇和島市は事実上、県による行政管理の下に置かれ、自治が崩壊してしまったのでした²⁾。

さて、大正天皇が15年12月25日に死去し、元号は昭和にかわりました。昭和元年は1週間たらずしかありません。昭和は事実上2年(1927)から始まりました。

昭和2年は金融恐慌の年であり、経済面で波瀾に満ちた年です。また、政治面では若槻礼次郎憲政会内閣から田中義一政友会内閣への転換の年であり、さらにまた、憲政会と政友本党が合同し、民政党が誕生し、政友会と民政党の2大政党の対立の時代です。そして、この年に県会議員選挙があり、3年には衆議院選挙があり、激しく闘われました。4年には、政友会内閣が倒れ、今度は浜口雄幸民政党内閣が成立し、対立はますます激しくなっていました。このように、昭和初期は非常に波瀾にとんだ時期です。

以下、昭和初期(2～4年)における、政争激しい宇和島政界、また愛媛県界の政治状況を見ながら、そこにおける亀太郎の立場・行動について、「高島亀太郎日記」を参考にしながら考察することにしましょう。

2) 『宇和島市誌』255～260頁、井上雄馬『山村豊次郎伝』187～201頁。

第1章 昭和2年の亀太郎

(1) 山村宇和島市長再選出と亀太郎

大正15年(1926)10月10日に行われた宇和島市会議員やり直し選挙の当選議員の党派別は、次の通りでした。

政友会派系の議員は、高島亀太郎、村山半蔵、久留島豊、渡辺松三郎、河野織太郎、松本勇、宍戸忠士、牧野虎恵、薬師神岩太郎、久都直太郎、久野修造、松浦元太郎、松田亀市、山崎運太郎、井上源一の15名です。

憲政会派系・反政友会の議員は、中川鹿太郎、久松操、三好直英、山崎章一、赤松晴雄、河野長平、参河恂五郎、溝口正文、佐々木饒、宮田正一、政石又市、国松福祿、中里重次郎、山口藤一、岡田一の15名です。全く勢力伯仲です。ただし、両派とも一枚岩ではなく、それぞれ派閥・内部対立がありました。

政友会派系は、山村(豊次郎)派と反山村・革新派に分かれ、山村派には、高島亀太郎、村山半蔵、久留島豊、渡辺松三郎、河野織太郎、松本勇、宍戸忠士、牧野虎恵、松浦元太郎、松田亀市が属し、反山村・革新派(自称で、前山村市長が中川派に甘いということで、反中川・山村市政の革新を唱えていた)には、井上源一を首領に、久都直太郎、久野修造、薬師神岩太郎、山崎運太郎が属していました。

他方、憲政会派系も、中川派と中正派に分かれ、中川派(当時「利権派」と反対派から呼ばれていた)には、中川鹿太郎を首領に、三好直英、山崎章一、河野長平、政石又市、中里重次郎、岡田一が属し、中正派(当時「水電派」と呼ばれていた)には、国松福祿、溝口正文、佐々木饒、山口藤一が属していました。その他に、無所属として、久松操、赤松晴雄、宮田正一、参河恂五郎がいますが、彼らは反政友会、憲政会派系と行動をとともにしていました³⁾

市会議長・副議長選挙は、勢力伯仲で、両派の推薦候補者同数の結果、年長

3) 浅井伯源『宇和島大観』26頁、昭和2年。

者が選ばれ、議長久松操、副議長山崎運太郎となっていました。

さて、昭和2年(1927)初めからの宇和島市会の最大の焦点は、第3代目の市長選びでした。亀太郎は山村派の中心人物として、再度山村豊次郎担ぎ出しのために精力的に動いていました。日記に「蔦屋ニテ山村君ト会食シタリ」(1月10日)、「業用ヲナシ、午後中川鹿太郎君ヲ訪ヒタリ」(1月11日)、「午前山村豊次郎氏ヲ訪フ」(1月12日)、「宍戸忠士君ト共ニ村山君ヲ訪(フ)」(1月14日)、「午後、都築君、村山君ヲ訪フ」(1月19日)、「午前井上源一君ヲ訪フ」(1月20日)、「業用ヲナシ、夕方村山君方ニテ同君及ビ井上、宍戸、久都、薬師神ノ諸君ト会シ、市政ニ就キテ協議シタリ」(1月24日)、「業用ヲナシ、午後村山君方ニテ同君及ビ宍戸君ト、ミカドニテ井上源一君ト会見シ、後、河野織太郎君ヲ訪ヒナドス」(1月29日)、「午後村山君方ニテ同君及ビ宍戸、山村、井上ノ諸氏ト会ス」(2月2日)、「午前山村、宍戸、村山、井上ノ諸君ヲ歴訪シ、又河野織太郎君ヲ訪フ」(2月3日)、「業用ヲナシ、午後六時ヨリ同志議員ト蔦屋ニ会シテ、明日ノ市会ニ関スル打合ヲナス」(2月4日)等々とあり、連日の如く、亀太郎は同志市会議員と頻繁に会合し、山村豊次郎を再度市長に出すべく、運動していたのでした。

そして、昭和2年2月5日に宇和島市会が招集され、市長選出問題が議題となりました。そこで、憲政会派系の中川派は、両派が15対15の勢力分野に鑑みて両派3名ずつの市長選考委員を選出することを主張しましたが、亀太郎や井上源一ら政友会派側は山村で固めていたため、即時市長選挙を行うことを主張しました。選挙の結果、即時市長選挙を行うこととなり、結果は山村豊次郎15票、長妻篤日子2票、赤松桂1票、無効9票で、山村が市長に選出されました。この日、中川派等憲政会派側は市長候補擁立の準備が出来ておらず、白票を出さざるを得ませんでした。他方、候補者を持ち、疾風迅雷、一気呵成に直接選挙に持ち込んだ政友会派側の勝利でした。2月5日の日記に「午前九時市会ニ出席ス。開会前松木市長代理司式ノ下ニ、先般聖上踐祚ノ際発セラレタル勅語ノ棒読式ヲ挙ゲ、十時ヨリ議事ヲ開ク。劈頭御大喪遙拝式費ヲ議決シタル

後、市会及市政ニ対スル各議員ノ質問アリ。正午休憩。午後一時再開議ノ上、市長代理ヨリ提案ノ市長選挙ノ件ハ反対派議員ヨリ詮衡委員設置説出デシニ拘ラズ、同志議員ヨリ即時選挙説ヲ主張シ、採決ノ結果、直チニ投票ヲ行フコト、ナリ、三時過投票ヲナス。予テノ協定ニヨリ同志議員ハ全部山村豊次郎氏ヲ選ミタレバ、開票ノ結果、十五点山村氏、二点長妻氏、壱点赤松桂氏、九点無効ニテ、則チ山村豊次郎氏市長ニ当選ス。四時閉会、同志ハ直チニ三間屋ニ会スルコト、ナリ、予ハ山村氏邸ヲ訪ヒテ此経過ヲ報ジテ、同氏ノ承諾ヲ確メ、後、三間屋ニテ議員諸氏ト夕餐ヲ共ニシテ、六時半帰宅シタリ」とあります。

市議会で再度市長に選出されたものの、山村豊次郎は直ぐには市長就任の承諾をしませんでした。そこで、各界が山村に市長に就任の要請行動をしていきました。まず、2月16日、市会の政友会派の同志議員達(亀太郎と井上源一が中心)が、三間屋で会合を開き、宇和島自治同志会を結成し、山村に市長就任するよう要請しています。また、2月21日には大浦で、24日には和霊町で、25日には北新町で区民大会が開かれ、同様の要請をしています。その結果、だんだん山村も動かされていったようです。

しかし、市議会は政友会派と反政友会派の勢力は伯仲しています。それを打開しなければ、山村も安心して市長に就任することはできません。亀太郎らは、この状況を打開するために工作を行っています。2月22日の日記に「午前山村氏邸ニテ井上、村山、久都、牧野ノ諸氏ト会シテ、市長就任、対市会策ヲ協議シ、午餐ヲ共ニシテ別ル」とあり、また、2月25日の日記に「午後六時ヨリ三間屋ニ於テ従来ノ同志議員ノ外、今回山村氏就職ニ就テ、新ニ参加シタル中里重次郎、河野長平、岡田一ノ三君ヲ合セタル一団ノ懇親会ヲ催シ、列席ス。山村氏モ来リテ意見ヲ交換シタリ」とあります。ここに出てくる、中里ら3議員は、いずれも中川(鹿太郎)派の議員です。つまり、中川派の議員の一部を切り崩しているのです。これで山村も安心して市長就任を承諾することができました。山村は3月1日に声明を出し、決意を述べ、3月2日、第3代宇和島市長に就任しました。

山村市長就任後の3月9日、亀太郎は、旧八幡区選出の同志議員と山村市長の出席をもとめて、議員懇親会をしています。そこに、中川派に属していた議員も参加していました。「午後七時ヨリ旧八幡区ノ同氏議員十名ヲ北陽谷本ニ会シテ懇親会ヲ催スコト、シテ回章ヲ出シ、夕刻ヨリ之ニ赴ク。松浦、松田両君欠席ニテ、松本、岡田、薬師寺、河野、中里、山口、牧野ノ諸氏及ビ予ヲ加ヘテ八名出席。山村君ノ列席ヲモ求メテ交驩シ、十一時前帰宅ス」（3月9日）。

以上のように、山村豊次郎を担ぎ出し、再度市長就任を承諾させた亀太郎の役割は大きいものがあります。

(2) 宇和島市会と亀太郎

宇和島市会が始まると、亀太郎は市会対策に頻繁に同志議員と会合を重ね、また、市会で、山村市長を擁護し、多忙な日々を送っています。以下、見てみましょう。

3月11日、市会開催前日の日。「午後一時ヨリ同志市会議員ト三間屋ニ会シテ、明日ヨリ開カル、予算市会ノ対策ヲ議シ、四時ヨリ同楼ニテ催サル、山村市長ノ同氏就任幹旋者及有志招待会ニモ列シタリ」。

3月12日、最初の市会の日。「午前九時市会ニ出席ス。全員出席ニテ、山村市長ノ就任挨拶アリ。反対派議員ヨリ市政ニ関スル質問演説アリテ、市長之ニ応答シ、本日ハ議案ノ審議ニ及バズシテ、正午頃解散ス。明日、明後日ヲ休会シテ十五日ヨリ引続キ予算ヲ議スル筈ナリ。乃チ同志議員ハ三間屋ニ会シテ議案ノ審査ヲナ（ス）」。

3月14日、「午前業用ヲナシ、午後穴戸忠士君ト共ニ山村市長ヲ其邸ニ訪フテ、予算案ニ対スル意見ヲ交換ス。夜、同志議員ト蔦屋ニ会シテ議案修正ノ点ヲ打合セヲナス」。

3月15日、「午前九時議会ニ出席ス。過日ニ引続キテ市政ニ対スル質問アリ。予ハ多数党ノ代表的演説トシテ、新市長ノ抱懷セル政策ノ披瀝ヲ要求シ、市当面ノ大問題ナル水道、港湾、教育施設ニ関スル大策及市財政ノ将来ニ就テ、質

問ヲナシ、山村市長ヨリモ亦之ニ対シ詳細ナル弁明アリ。午後昭和二年度予算案ノ第二続会ニ入り、各款ノ逐條審議ニ於テ、予ハ同志議員予テノ打合ニヨリ屢登壇シテ、会議費、教育費ノ修正案ヲ提議説明シ、採決ノ結果、孰レモ通過ヲ見タリ。三時本日ノ会議ヲ閉ヂテ、一同退出ス。後、ミカド、中村及ビ中ノ町穴戸等へ寄りテ、六時頃帰宅シ、夜、予算案未決定ノ分ニ対スル修正案ノ調査ヲナシタリ」。

3月16日、「午前九時ヨリ市会ニ出席ス。昨日ニ引続キ予算案ヲ議シ、警備費其他ノ款ニテ修正ヲ加フル所アリ。又川端技師等水道関係者ノ慰労金贈呈ニ就テ委員会ヲ開キナドシ、午後三時閉会」。

3月17日、「午前九時予算市会ニ出席ス。本日モ予ノ提案ニテ多少ノ修正ノ個所アリシガ、孰レモ多数通過ヲ見、又予テノ懸案タル繭検定所建設費市寄附金モ異議ナク可決シタリ。午後二時閉会、帰宅シ、夕方迄ニ生糸ノ出荷等業用ヲナス。夜、丸水ニ於ケル市長主催ノ西村保吉氏招待会ニ列席ス」。

3月18日、市会の最終日。「午前九時ヨリ市会ニ出席ス。本日モ議事順調ニ進ミ、午後一時迄ニ議案全部ヲ議了シ、区長及代理者ノ補欠推薦、水道委員ノ推薦等アリテ、孰レモ承認ノ上、午後二時頃閉会ヲ告グ」。

このように、市会開会中、亀太郎がしばしば登壇し、山村新市長を支えていたことが分かります。

(3) 昭和2年の県会議員選挙と亀太郎

昭和2年3月14日の若槻憲政会内閣の片岡直温蔵相の失言がきっかけとなり、3月15日から4月にかけて多くの銀行が休業、破綻し、金融恐慌が勃発しました。なかでも鈴木商店が破綻し、それに多額の融資をし、多額の不良債権を抱えていた台湾銀行が危機に陥り、金融危機は深刻化しました。この危機に対し、時の若槻礼次郎憲政会内閣は、台湾銀行救済のため、緊急勅令で日銀の非常貸出、損失補償の方針を打ち出しましたが、憲政会内閣に反対の枢密院は、4月17日、これを否決し、その結果、若槻内閣は総辞職しました。それに代わっ

て誕生したのが、対外的にも対内的にも硬派の田中義一政友会内閣でした（4月20日成立）。

野党に転落した憲政会は、政友会に対抗するために政友本党と合同して、6月1日立憲民政党を結成しました（総裁浜口雄幸）。この結果、帝国議会では与党政友会が少数となり、野党の民政党が多数派となりました。政友会、民政党の2大政党の激しい対立が始まりました。

愛媛県でも、少し遅れましたが、7月27日に民政党愛媛支部結成の準備協議会、そして9月5日、中央から床次竹二郎を迎えて民政党愛媛支部が結成されました。支部長は置かず、幹事長に県会議員の松田喜三郎（温泉郡選出）が就任しています⁴⁾。また、民政党の南予支部も、9月6日に床次竹二郎を迎えて、支部を発足させています。

宇和島でも、2大政党の対立が始まります。政友会側は、7月31日、中央より、砂田ら政友会の幹部を迎え、融通座で政談演説会を行っています。この演説会で、亀太郎が、開会の辞・挨拶をしています。「夕方蔦屋へ行キテ、本日来宇シタル農林省参与官砂田重政君、代議士土井権大君、同高山長幸君、同佐々木長治君、政友会院外団倉石法学士ノ一行ニ会シ、予ハ七時ヨリ演説会場ナル融通座ヘ行ク。久シ振りノ政談演説会ニテ多数ノ聴衆アリ。予、開会ノ辞ニ於テ経済ト政治ノ関係ヲ論ジ、次デ高山、佐々木、倉石、土井ノ諸氏演説シ、最後ニ砂田氏一時間半ニ亘リテ詳細ニ政友会ノ積極政策ヲ論ジ、満堂ヲ傾聴セシメタリ。閉会后十一時ヨリ丸水ニ於テ一行ノ歓迎会ヲ開キ、五十余名ノ来会者アリ。十二時過帰宅ス」（7月31日）とあります。

8月、南予で政友会と旧国民党との合同の協議が行われています。8月12日の日記に「午後三時ヨリ蔦屋ニ於テ、山村、久松、井上、村山等ノ諸氏及ビ来宇中ナル佐々木長治氏ヲ加ヘテ政友倶楽部組織ノ協議アリ、出席ス」とあります。山村豊次郎、井上源一、村山半蔵は政友会です。久松操は旧国民党です。

4) 『愛媛県議会史 第3巻 41～42頁。』

亀太郎は元は国民党、現在は政友会です。合同に異存はありません。そして、以後も協議が続いています。「業用ヲナシ、午後六時ヨリ蔦屋ニ於テ政友会幹部ノ協議会ヲ開キ、出席ス」(8月16日)。「業用ヲナシ、午前十時ヨリ三間屋新館ニ於ケル政友倶楽部組織ノ市郡有志協議会ニ出席ス。来会者二百名、盛会ニシテ久松、井上諸氏ノ談アリ。予モ感想ヲ陳ベテ同志結束ノ議ヲ纏ム。午後三時散会ノ後、村山君方ヘ幹部ノミ寄り、夕方ヨリ予ハ久留嶋君ト共ニ北新町錦ヘ行キタリ」(8月19日)とあります。そして、南予政友倶楽部は9月12日、中央から望月圭介逓信大臣を迎えて発足しました。

さて、昭和2年9月25日に田中義一政友会内閣の下で県会議員選挙が行われることになります。この選挙は普通選挙法に基づく初めての県会議員選挙でした。そこで、政友会、民政党の両政党が候補者を立て、また、無産政党も立候補しました。愛媛県会の県議の定数は37名で、政権党の政友会から27名、野党の民政党から19名、無産政党から4名、中立から6名、計56名が立候補しています。

宇和島での県議候補の選出と県議選を見てみましょう。宇和島市の県議の定員は1名。現職の県議は亀太郎です。亀太郎は、大正8年に国民党から初めて初当選し(当時は北宇和郡選出)、大正12年に再選している現職です(宇和島市選出、中立)。中立ですが、政友会と行動を共にし、政友会派の県議でした。昭和2年9月の県議候補者選びでは、宇和島の政友会派は、3期目も亀太郎をというようにはなりませんでした。政友会派の市会議員達等で作っている政治団体・宇和島自治同志会は、9月1日会合を開き、久都直太郎(政友会、市会議員)を第1候補、現職の亀太郎を第2候補と決めました。久都擁立派が先走ったようです。9月1日の日記に「今夜宇和島自治同志会ノ集会アリテ、県議候補者ヲ詮衡ノ結果、第一候補トシテ久都君ヲ推薦シ、第二候補ハ予ナル由伝聞ス」とあります。しかし、その後、亀太郎擁立派のまきかえしがあったようです。9月2日「少壮団ノ河野茂吉君来訪。……夜、久松、井上其他ノ同志議員十数名ト蔦屋ニ会ス」。9月4日「病院ヘ行キ、村山君方ニテ同君及ビ穴戸

忠士君ト談ジ、正午ヨリ蔦屋ニ会シテ、東京ヨリ帰来ノ山村君、新帰朝ノ清家、岡本両君其他久松、実藤ノ諸君ト選挙対策ヲ議ス」等々とあります。ここに出ているメンバーは、久松操（市会議員）、井上源一（同）、宍戸忠士（同）、山村豊次郎（宇和島市長）、清家吉次郎（北宇和郡選出の県議）、岡本景光（同）です。亀太郎擁立派の巻き返しが成功したのでしょうか。9月6日、久都が県議候補を下り（ないし下ろされ）、亀太郎が候補者に擁立されました。9月6日の日記に「朝、山村、久松両氏来訪ノ上、過般来県議立候補ノ説アリタル久都直太郎君ハ断念スルコトニナリタレバ、是非共ニ予ニ出馬セヨトノコトナリ。後、病院、市役所及ビ中川鹿太郎君方ヘ行キナドシ、午後一時袋町浜通米屋旅館ニ設置シタル政友倶楽部設立事務所ヘ会ス」とあります。

しかし、亀太郎は、県議候補に擁立されたものの、承諾せず、むしろ翌9月7日、山村市長を訪問し、候補辞退の意思を伝えています。「朝、山村氏ヲ訪ヒ、又病院ヘ行キナドシ、午後一時再ビ山村氏ヲ市役所ニ訪ヒテ、予ノ立候補ハ寧ロ見合ハスガ適当ト思フ旨ヲ告グ。午後四時福田薫、酒井計一ノ両君来訪ノ上、自治同志会ヲ代表シテ立候補ノ交渉ヲ受ケタレドモ、勘考スル旨答ヘ置キ、夜、中村君ヲ訪ヒテ相談ノ上、更ニ村山君方ヘ行キテ同君ト会見。先般来内交渉ヲ受ケ居タル立候補ノ件ハ、乍遺憾承諾取消トシタキ趣旨ヲ述べ、山村氏ヘ談合方ヲ同君ニ依頼ス。十一時半帰宅」。さらにまた翌8日の日記に「朝、村山君方ニテ同君及ビ山村氏ト会見ノ上、予ノ立候補中止ノ理由ヲ開陳シ、山村氏モ昨夜来政友倶楽部幹部ト協議ノ結果、四圍ノ情勢ニ鑑ミテ暫ク立候補ヲ見合ハスガ適当ナルベシトノ意見ヲ懐カル、コトニナリタレバ、是迄ノ交渉ハ一先ズ打ち切りテ、全然白紙ノ状態ニ帰ルコトニ談一決ス。但シ山村君ヨリ今後事情ヲ整ヘテ更ニ承諾ヲ求ムベシトノコトナレドモ、此点ハ何等留保シ難ク、今後ノコトハ全ク別問題トシテ其際ノ考慮ニヨルノ外ナシト答ヘ置キタリ。後、病院及ビ中村ヘ寄りテ帰宅、正午頃久留島君来訪ス。夜、政友少壮団ノ幹部数名来訪。予ニ立候補ヲ勧メラル後、大岡君来リ、出馬見合セノ得策ニシテ痛快ナル旨ヲ語り、十一時過迄歓談シテ去ル」とあります。

亀太郎が何故、立候補の要請を辞退したのかは、この文章からは不明ですが、おそらく、政友会内部の派閥争いがあり、現職の亀太郎を一致団結して推薦しておらず、気分を害したこと、また、政友会内の久都擁立派がまだ亀太郎を推薦しておらず、必ず勝てる条件がまだ整っていなかったことが真相であろうと思われます。

しかし、県会議員の選挙は9月25日に迫っています。このままでは民政党に負けてしまうかも知れません。猶予は一刻もできません。9月9日、南予政友倶楽部は、県議候補に亀太郎を満場一致決定しました。「午前穴戸忠士君ヲ訪ヒ、帰後生糸ノ出荷等業用ヲナス。夜、病院へ行キタリ。今夜公会堂ニテ南予政友倶楽部ノ候補者詮衡会ヲ開キ、集マルモノ百余名ニシテ、再ビ予ヲ推薦スルコトニ満場一致決定シタル由」。そして、翌日、政友倶楽部の幹部が亀太郎に立候補の要請に来ました。しかし、亀太郎はまだ直ぐに受諾していません。9月10日の日記に「朝八時、南予政友倶楽部ノ詮衡会委員久松操、井上源一、井上浦蔵、牧野帛恵、池下常五郎等ノ諸氏十名来訪。昨夜ノ決議ニ基キ、予ニ立候補ヲ勧誘セラレタレドモ、事情ヲ述ベテ辞退シタルガ、尚肯ハズ。午後迄ノ再考ヲ約シテ去ラレタリ。後、村山へ行キ、又午後三時政友倶楽部事務所へ行キテ、確答延期ノ旨ヲ談ジ置ク。夕方蚕業同志会ノ有志行定、大宮ノ諸氏数名来訪ノ上、本日会合シタル同会ノ決議ニ基キ、是亦予ニ立候補ヲ勧メラレタルガ、依然即諾シ難キ旨ヲ答ヘタリ。夜、更ニ村山君ヲ訪ヒテ、昨日来ノ成行キヲ談ジ、意見ヲ交換スル所アリ」とあります。

そして、漸く、9月11日、亀太郎は立候補を受諾しています。それは、久都が亀太郎の所に要請に来たからでした。「朝、久都直太郎君来訪。同君立候補ハ断念シテ他意ナク、同君ノ一派モ大体予ニ好意ヲ有スルモノナルヲ以テ、立候補ヲ決セラレタキ旨ノ談アリ。熟考スベキ由ヲ答フ。十時過村山君ヲ訪ヒ、同君ト共ニ米屋ニ於テ山村氏ト会見ノ上、重要事項ノ打合ヲナシタル結果、四圍ノ情勢ニ鑑ミ、此上辞退ノ途ナキヲ以テ立候補ノコトヲ内諾ス」。

以上、少し長く立候補に至るまでの経緯を見ましたが、亀太郎の少しきむづ

かしい性格、また一致団結、挙党体制の出来るのを待つて初めて立候補するという石橋を叩いてわたるような性格、さらに中々の政治家振りをかいま見ることができましょう。

9月12日に中央から政友会の望月圭助逋信大臣を迎え、南予政友倶楽部(政友会派と旧国民党系の合同)の発会式ならびに県議選勝利の政談演説会が行われました。「本日ハ政友会ノ遊説トシテ、逋信大臣望月圭助氏ノ一行宿毛ヨリ御荘ヲ経テ陸路来宇ノ筈ナレバ、南予政友倶楽部ノ発会式ヲ此日ヲ以テ行フコトニシ、過般来其準備中ナリシガ、山村氏ハ昨夜ノ汽船ニテ宿毛へ、尾崎知事ハ今朝自動車ニテ南郡へ、夫々出迎ニ出張シタルガ、予ハ午前中事務所ニアリ、又中村へ行キテ同君ニ不得已立候補シタル由ヲ告グ。正午母病院ヨリ帰り、妻ハ再ビ看護ニ行キタリ。午後二時融通座ニ行キテ、南予政友倶楽部発会式ニ臨ム。市内及ビ郡部ヨリノ来会者約二千名ニテ、満場立錫ノ余地ナキ盛況ナリシガ、望月逋相ハ二時三十分会場ニ来着、直チニ式ヲ挙ゲ、逋相ヲ始メ地方政友会幹部ハ正面舞台ニ列坐シ、山村君座長トシテ規約ノ制定、役員ノ選挙等型ノ如クニ進ミ、予ハ宣言ヲ朗読ス。久松君立党ノ由来ヲ述ベテ、南予地方政友系及ビ旧国民党系合併ノ理由ヲ明ニシ、次デ望月逋相ノ祝辞演説アリ。本日ハ融通座及ビ共楽座ノ二箇所ニテ、政談演説会ヲ開クヲ以テ、予ハ三時過共楽座へ赴ク。是ヨリ先キ清家吉次郎君ハ同座入場ノ聴衆ニ欧米漫遊談ヲ試ミ居タルガ、入場者既ニ満員ナルヲ以テ、三時四十分政談演説会ヲ開キ、予、開会ノ辞ヲ述ブルコト二十分間、引続キ今回来宇ノ代議士児玉右二氏ノ演説アリ。久松氏之ニ次ギ、程ナク望月逋相共楽座ニ来場シテ『所感』ヲ述べ、政友会内閣ノ政策ヲ縷説シテ、最後ニ県會議員選挙ニ於ケル市民ノ援助ヲ求メテ降壇。後、外務参与官植原悦二郎氏ノ演説アリテ六時半閉会。七時ヨリ三間屋新館ニ於ケル逋相一行ニ対スル官民合同ノ大歓迎会ニ出席ス。散会後望月氏ヲ始メ此一行、佐々木代議士、尾崎知事、加勢高知県知事等ヲ招待セル地方政友会幹部ノ小宴ニ丸水ニ列シ、胸襟ヲ開テ十一時頃迄驩談シタリ」。

9月13日以降、亀太郎は本格的に選挙活動に入ります。「午前業用ヲナシ、

又事務所へ行ク。過日来推薦ヲ受ケタル各団体、即南予政友倶楽部、南予蚕業同志会、南予政友少壮団、宇和島自治同志会へ夫々予ノ立候補承諾ノ旨ヲ告グ。正午ヨリ薦屋ニ会ス。此処ニテハ郡部立候補者ノ決定協議アリテ、各方面有志ト山村、久松等最高幹部トノ折衝アリシガ、夕方ニ到リ、結局政友会ノ郡部候補者ハ、岡本景光君辞退シ、吉田郷ノ清家吉次郎君、津島郷ノ赤松勲君、三間以北十一ヵ村ノ芝直由君ノ三名ヲ公認スルコト、決定シタリ。之ニ対シ、民政党側ヨリハ好藤村ノ菅正意、岩松方面ノ国松福祿両氏立候補シ、此外ニ明治村ヨリ新城誠明君日本労働党ヲ標榜シ、又池下常五郎君蚕業者ヲ基礎トシテ立候補スベキ模様ニテ、郡部モ相当激戦ヲ演ズベキ形勢ナリ」。なお、亀太郎の県議選挙の事務長は井上源一（市会議員）が就任し、9月14日立候補の届けをしました。

以後選挙活動が続きます。例えば、9月21日の日記に「夜七時ヨリ融通座ニテ政見発表演説会ヲ聞キ、久留島、久松、池下諸氏ノ応援アリ。予ハ『吾人ノ所信』ナル題下ニ一時間ニ亘リテ県政ニ対スル政見ヲ述べ、聴衆ヲ傾聴セシメタリ。入場者千五百名盛会ナリキ。十時過閉会、事務所ニ帰ル」とあります。

亀太郎の対立候補は、民政党の佐々木饒（宇和島市会議員）でした。選挙情勢は民政の佐々木饒に有利で、亀太郎には不利だったようです。9月22日の日記に「終日選挙事務所ニアリ。夜、和霊神社参籠所及ビ柿原集会所ニテ政談演説会ヲ開キ出席ス。佐々木候補トノ競争劇烈ヲ極メ、容易ニ樂觀ヲ許サル情勢トナリ、警察側ノ予想モ当方形勢面白カラズトノ消息アリ」とあります。また、9月23日の日記に「形勢不利ニ就キ、山村君及ビ井上君ト共ニ対策ヲ凝議シ、大ニ奮闘ヲ続クルコト、ス。敵方モ善戦シ居レルガ、弾丸欠乏シ、佐々木候補卒倒シタリトノ情報アリ。夜、大浦西光寺ニテ演説会ヲ開キ、出席ノ上政見ヲ発表ス。応援弁士ハ水野、西山、久留島ノ諸氏ナリ」とあります。民政党佐々木側は弾丸、即ち金銭をばらまいたようです。

投票前日の9月24日も亀太郎になお、形勢不利でした。日記に「終日事務所ニアリ。敵方ハ勢力ヲ挽回シタルガ如クニ見へ、各方面共雰囲気民政党ニ味方

シ、当方危シトノ評全市ニ充ツ。極力奮闘中ナルガ、夜七時頃悲観最甚シ」とあります。しかし、その後、亀太郎は巻き返しました。「更ニ発奮努力シ全員ヲ督励ノ上白兵戦ヲ演ジタル結果、十時過ニ至リテ稍安堵シ得ベキ形勢トナレリ。十二時家ニ帰ル」。「白兵戦」の内容は不明ですが、これにより、形勢逆転したようです。なかなか迫真迫る興味深い記事です。

そして、投票当日の9月25日となりました。亀太郎派は最後の時間まで投票動員をキチンと行っています。「県会議員選挙ノ当日ナリ。第一投票所ハ市役所、第二投票所ハ商業学校ナレバ、当方ハ臨時事務所ヲ各投票所ヨリ三町以外ノ追手通いろはト鶴島町中通泉屋ニ置キ、配置怠リナシ。夜来雨天ノ為メ有権者ノ出足遅ク、此俟ニテハ多数ノ棄権者ヲ生ズル恐レアリ。二時頃ヨリ急ニ之ガ対策ヲ行ヒ、午後四時ノ閉所迄ニ、結局第一区二八八六、第二区一八八四、計四七七〇票ノ投票アリ。全有権者数六四一九名ニ対シ、実ニ貳割六歩ノ棄権ニシテ、普通選挙第一次ノ県議戦トシテハ市民ノ自覚未ダ足ラザルヲ思ハシム。締切後運動員一同米屋ヘ引揚ゲテ、両候補得点数ノ予想ニ意気込ム。当方ハ最後ノ一両日間ニ大ニ奮闘シ、佐々木側ハ最終ノ応戦足ラザリシ為メ、先日来ノ形勢ヲ挽回シテ勝算疑ナシトノ見込ナリ。予ハ病院ヘ寄リテ、スミヲ見舞ヒ。夜八時帰宅シタリ」。

9月26日が開票日です。「開票ノ当日ナリ。午前九時事務所ヘ行ク。開票ハ、午前八時ヨリ宇和島市役所ニ於テ執行セラレタルガ、十時頃ニハ大勢既ニ当方ノ勝利ト判明シ、一同意気昂ル。午後〇時四十五分終了。其結果ハ、二八三四票高島亀太郎（政）、一七八九票次点佐々木驍（民）ニシテ、予ハ憲政史上最有意義ナル普選第一次ノ全国的選挙ニ於テ、三度継続シテ県会議員ニ当選ス。此得票中第一投票場ノ分ハ、予一六九四、佐々木一一一三、無効三九ニシテ、第二投票場ノ分ハ予一一四〇、佐々木六七六、無効七〇ヲ算シ、八幡区殊ニ成績宜シキハ意ヲ強フスルニ足ル。斯クテ競争激甚ヲ極メタル市部ノ県議戦ハ、優差一〇四五票ノ圧倒的多数ヲ以テ、政友会側ノ大勝ニ帰シタリ。三時過当選告知書ヲ受領ス。予ハ選挙ノ結果判明スルヤ、特ニ尽力セラレタル山村、久松、

井上ノ諸氏及ビ予ガ直属運動者ノ宅ヲ歴訪シテ謝意ヲ表シ、八時事務所ヨリ家ニ帰レリ。尚郡部開票ノ結果ハ夜十時頃迄ニ全部判明シタルガ、南宇和郡ハ政友ノ清家政夫君当選、民政ノ尾崎重厚君落選シ、北宇和郡ハ定員四名ノ内、政友ノ赤松勲、清家吉次郎、芝直由ノ三君悉ク当選、民政ノ菅正意君末点ニテ当選シ、民政ノ国松福祿君、日労ノ新城誠明君落選トナリタリ。予ノ当選ハ市内ハ新聞号外、松山及ビ阪神地方ハ夕刊ヲ以テ周知サレタレバ、夕刻迄ニ松山、大阪、東京、神戸等ヨリノ祝電約三十通ニ達セリ」。

愛媛県全体の選挙結果は、政友会 24 名、民政党 11 名、中立 2 名で、政権党の政友会側の大勝でした。

(4) 県議としての亀太郎

選挙後初めての愛媛県会(臨時)が、10月18日から開催されました。そこで、議長、副議長、参事会員の役員選挙が行われました。議員になると、議長・副議長等になりたいものです。亀太郎も政友会の議員達と共に協議をしています。内部調整がつかず、中々決まらず、その結果、役員任期を分割することを決めています。10月19日の日記に「十一時過ヨリ梅廼家ニ会ス。本日ハ役員選挙ニ就キテ協議ヲ進メ、大体議長、副議長共一期中ニ三名交替、参事会員ハ毎年交替ヲ原則トシテ、人選方ヲ各予ニ宛ノ委員及ビ支部ニ一任スルコトニ決定ス」とあり、任期中に3人も議長・副議長を代えるという、役員のたらい回しが政友会内部で決められています。そして、10月20日の県会で、議長、副議長が決まりました。日記に「正午ヨリ同志議員ハ一同梅廼家ニ会シテ、本日ノ役員選挙ニ就キテ打合ヲ続ケ、午後三時半一旦議場ニ臨ミテ、時間延長ヲ宣シテ後、四時過ニ到リテ漸ク内部ノ折合付キ、両派共再ビ議場ニ出席ノ上五時開会、選挙ヲ行フ。其結果、議長ハ政友派ノ清家吉次郎君、副議長ハ同竹内鳳吉君当選ス。尚両君共一年ニテ辞シ、議長ハ跡一年越智茂登太君、次二年清家俊三君ニ、副議長ハ跡二年大本貞太郎君、次一年予ニ夫々交替ノ内約ナリ。参事会員ハ、和田、川上、西村、日野、赤松、織田、宮内、菊地、工藤、岡本ノ十氏又都市

計画委員会ノ委員ハ織田、大本ノ二氏当選シテ、全ク選挙ヲ了リ、六時頃知事閉会式ヲ行フ。臨時県会茲ニ結了シタレバ、政友派議員一同ハ梅廼家へ引揚げテ、晚餐ヲ共ニシ、予ハ八時過帰宿」(10月20日)とあります。このように、県会は政友会が圧倒的多数故、議長、副議長すべて政友会の独占で決まりました。議長、副議長の任期分割・たらい回しの内約の結果、亀太郎にも、副議長のポストが回ってくることとなりました。

3期目の県会議員となった亀太郎は、山村宇和島市長と共に、宇和島市政が抱えている問題—須賀川付け替えの県費補助、宇和島港湾の改修等—のために尽力し、県当局に働きかけています。例えば、11月9日「午前九時高浜着船、山村氏及市土木主任佐伯求君、同船シタル吉田ノ井上豊太郎君等ト共ニ汽車ニテ松山ニ到リ、十時政友会支部長久松定夫君ヲ訪ヒテ談シタル上、山村氏ト共ニ県庁へ行キテ、尾崎知事ニ面接ノ上、宇和島市ノ港湾計画ニ就テ陳述シ、須賀川附替費ノ県費補助増額ノ発案ヲ懇請ス。既ニ当局ニテハ大体ノ土木計画査定済ナレドモ特ニ調査考慮スベシトノコトニテ、一旦退出。尚内務部長ヘモ此事ヲ陳情シテ援助ヲ請ヒ、更ニ土木課ヲ訪ヒテ、篠原主任等ニ談ズル所アリ。午後一時予ト山村君トハ更科ニテ昼食ノ後、愛治村県道ノ件ニテ上松セル同村々長及ビ有志ト共ニ再ビ久松君方へ行キテ、共ニ尽力方ヲ依頼シ、又村長等ヲ携同シテ県庁ニ再ビ羽田内務部長ト語り、略諒解ヲ得タリ。予ハ更ニ学務課長ヲ訪ヒテ、宇和島実科女学校ニ就キテ談ジ、同校モ来年度ヨリ実業学校令ニ抛ル技芸学校ニ昇格ノ方針ニテ、予算案提出ニ到ルベキ模様ナルヲ知ル。三時ヨリ知事官房ノ扣室ヘ帰りテ待ち居タルガ、此時知事ハ尚内務部長、庶務課長、土木課主任等ヲ招致シテ、予等ノ陳情セル須賀川附替ノ設計ヲ調査審議中ニシテ容易ニ決セズ。退出時間モ過ギタル午後五時ニ到リテ、漸ク協議了リ、予ノミヲ引見ノ上、希望ノ通り既定補助額十七萬三千三百五十円ノ外、新ニ設計變更ニ伴フ補助増加額十五萬円ヲ県ノ土木継続費ニ計上提案スベシトノ回答アリタリ。則申請手續上ノコトハ佐伯君ヨリ土木課ヘ打合セスベキコトニ運バシメテ、直チニ城戸屋ニ帰り、之ヨリ先キ同旅館ニ帰り居タル山村君ニ此事ヲ告グ。

同君モ大ニ安心シテ、共ニ夕餐ヲ認メタル後、今夜高浜発ノ屋島丸ニテ上京スルベク、六時城戸屋ヲ出発セラレ、予ハ同君ト別レテ道後みつや旅館ニ投宿ス」。

また、11月に開催された第107回愛媛県通常県会（昭和3年度予算等）においても、宇和島港湾改良の補助金増額のために奮闘しています。12月17日の県会のことです。「午前九時ヨリ同志議員一同ト梅廻家ニ会シテ、本日上程セラル、土木関係ノ諸議案ニ就キ、民政党側ノ反対ニ対スル対策ヲ議シ、午餐ヲ共ニス。午後一時県庁ヘ行キテ、尾崎知事ニ道路ノ件ヲ談ジ、又土木課ヲ訪フ。一時三十分ヨリ県会開会。土木計画変更其他ノ重要案件ノミナレバ、傍聴者モ多ク、議場緊張シタルガ、民政党ノ反対アリシニ拘ラズ、全部政友会ノ主張通り原案ニ決シ、第二十六号議案即宇和島港補助費拾五萬円増額ノ件モ、西村兵太郎君廃案説ヲ出シタルニ対シテ、予、反駁ヲ加ヘ、採決ノ結果多数ニテ可決確定セリ。五時十分閉会トナリ。六時ヨリ松山市ノ招待ニ係ル議員慰労会ノ梅廻舎ニ列シタリ」（12月17日）。

また、亀太郎は製糸家として、蚕糸業にかんする質問等も行っています。12月10日「午前十時梅廻舎ニ会シ、十一時県会ニ出席ス。本日附議ノ勸業費ニ於テ、予ハ繭品種改良ニ就キ意見ヲ述べ、原蚕種配布県営ノ意向ヲ当局ニ質問スル所アリ。蚕糸課長ノ答弁アリテ、正午前閉会」。12月14日「午前十時梅廻家ニ会シ、十一時過ヨリ一同県会ニ出席ス。予外二名ヨリ繭種改良ニ関スル意見書ヲ提出シタリ」等々。

第2章 昭和3年の亀太郎

(1) 昭和3年の衆議院総選挙と亀太郎

昭和2年4月20日、田中政友会内閣が誕生したものの、6月野党の憲政会と政友本党の合同による民政党の誕生で、帝国議会における勢力は、与党の政友会は少数で、野党の民政党が多数でした（政友会190、民政党219）。そこで、3年に入り、田中政友会内閣は与野党逆転を狙い、1月21日、民政党の田中内閣不信任案上程に先立ち、衆議院の解散に踏み切りました。それにより、普通

選挙法にもとづく初めての衆議院選挙が行われることになりました。愛媛県の選挙区は3区に分かれ、それぞれ定員が3名でした。1区（松山市、温泉郡、伊予郡、上浮穴郡、喜多郡）では、政友会から3人（岩崎一高、須之内品吉、高山長幸）、民政党から2人（武知勇記、松田喜三郎）、その他に2人（成田栄信、石丸富太郎）が立候補しました。2区（今治市、越智郡、周桑郡、新居郡、宇摩郡）では、政友会から2人（河上哲太、竹内鳳吉）、民政党からも2人（村上紋四郎、小野寅吉）、労農党から1人（小岩井浄）立候補しました。亀太郎の属する3区（宇和島市、西・東・北・南宇和郡）では、政友会から3人（佐々木長治、二神駿吉、清家吉次郎）、民政党から2人（村松恒一郎、本多真喜雄）が立候補しました。政権与党の政友会の意気込みが伺われます。

さて、亀太郎ら南予政友倶楽部は3区の政友会候補の当選に責任を持っています。佐々木長治は西宇和郡伊方村出身、二十九銀行頭取であり、現職の衆議院議員（大正13年5月～）です。二神駿吉は南宇和郡城辺町出身、大日本人造肥料会社の専務取締役で、前回も立候補しましたが落選し、今回が再挑戦です。清家吉次郎は、吉田町長、県会議員であり、今回が初出馬です。この3人が議席独占をめざして、第3区の地区割を行っています。佐々木は西宇和郡一円、二神は宇和島市と南宇和郡全域及び北宇和郡の島や海岸部の諸村と三間地方が割り当てです。清家は北宇和郡の半分と東宇和郡です。相手方の民政党の候補・村松恒一郎は、宇和島市出身、元衆議院議員（国民党、憲政会）で、大正期に亀太郎が担いだ人です。本多真喜雄は、宇和町出身、卯之町銀行頭取、これまで2回挑戦、今回が3度目です。激戦です。

亀太郎は、政友会の二神駿吉候補を担当しています。2月8日の日記に「今回ノ衆議院議員総選挙ニハ愛媛県第三区ヨリハ（定員三名）民政党側村松恒一郎、本多真喜雄ノ二名、政友会側佐々木長治、清家吉次郎、二神駿吉ノ三名、立候補確定ノ上、成規ノ届出ヲ了リ、尚日本労農党ヨリ井谷正吉君モ出馬スベキ模様ニテ、一市四郡ノ当選挙区ハ相当激戦ヲ見ルベキ形勢ナリ。夜、共楽座ニ於ケル村松氏ノ演説ヲ聴キテ後、政友派ノ集合所タル鳶屋旅館ニ行キテ、本

日帰郷セル候補者二神駿吉氏ニモ会ス。政友派ハ地区分ケノ結果、宇和島市及南宇和郡一円、北宇和郡ノ対島地方、三間地方、海岸地方ヲ二神氏ニ当テ、予等モ主トシテ同氏ヲ応援スルコト、ナリタレバ、明日ヨリ南郡ヲ始メトシテ各地ニ遊説スル計画ヲ立テ、十一時過家ニ帰レリ。尚二神氏宇和島事務所ハ追手通九方ニ置クコト、ナリ。既ニ推薦状等ノ発送ニ従事シ居レリ」とあります。

さて、本格的に選挙応援活動が始まりました。応援活動を見てみましょう。

2月9日は南宇和郡城辺町に応援です。「正午蔦屋へ行キテ、二神駿吉氏、山村氏等ニ会シ、午後二時自動車ニテ二神氏及ビ長妻篤日子君ト共ニ南宇和郡へ趣ク。四時半城辺着ノ上、同地ノ有志、運動員ト会シ、五時ヨリ集会所ニ於テ政見発表演説会ヲ開ク。之レ今回二神氏立候補最初ノ演説ナリ。夜八時更ニ深浦寺院ニ於テ同様演説会ヲ開催シ、予ハ主トシテ政友会ノ産業立国策ニ就キテ陳述セリ。閉会後城辺松屋旅館ニ帰り、柴田芳久、梶原計国ノ諸君トモ談ジテ、十二時寝ニ就ク」(2月9日)。

2月10日は城辺町から一本松町へ行き、また城辺町に帰り、緑僧都村へ行き応援演説し、また城辺に帰り、そして、宇和島に帰ってきます。「午後二神氏及ビ長妻君等ト共ニ、自動車ニテ一本松へ赴キ、同地小学校ニ於テ政談演説会ヲ開ク。聴衆五百名ヲ算シ、盛会ナリ。五時過閉会ノ上、一旦城辺ニ帰り、七時ヨリ再ビ緑僧都村へ行キテ、緑ノ小学校ニ於ケル政談演説会ニ出席ス。此処モ会衆三百名ニ上リ、演説後、田中総裁吹込ノ蓄音機ヲモ聴カシメテ、十一時閉会。予ハ城辺ニ帰りテ後、今夜ノ汽船ニテ帰宇スルコト、シ、二神氏ノ選挙事務所ヲ辞シテ、腕車貝塚港ニ出デ、折柄入港ノ第九鶴島丸ニ投乗シテ、十二時四十分抜錨、平城ヲ出発シタリ」。

2月11日は宇和島に朝帰りです。「払曉帰宇。午前蔦屋及ビ九ナル二神選挙事務所へ行キ、十一時帰宅シテ、午後ハ業用ヲナス」。

2月12日は北宇和郡岩松村に応援に行き、宇和島に帰ったのは又真夜中でした。「午後二神選挙事務所へ行キ、又五時ヨリ自動車ニテ岩松ノ演説会ニ赴ク。同地事務所タル大畑旅館ニ少憩ノ上、七時ヨリ岩松公会堂ニ於ケル政談演説会

ニ臨ミタルガ、予ハ『産業立国ニ就テ』ノ題下ニ約四十分ノ演説ヲナシ、喝采ヲ博シタリ。二神候補者、長妻、宍戸及ビ大日本人造肥料ノ本社ヨリ応援ニ来宇中ナル門田登都志、苜米地義三郎諸氏ト共ニ十一時半宇和島ニ帰リタリ」。

2月13日は高島製糸の業用を行い、夜、選挙事務所へ行っています。

2月14日は再び北宇和郡の岩松町、下灘村、御槇村、清満村を回り、宇和島に真夜中帰っています。ハードです。「十時ヨリ二神氏及ビ久留嶋、門田、苜米地諸氏ト共ニ津島郷ノ演説ニ趣ク。先ヅ岩松事務所へ寄リテ、赤松勲君ヲ加ヘテ後、下灘村嵐ノ下灘村役場へ行キ、更ニ小舟ニテ大字単鳴へ渡リ、同地小学校ニテ演説会ヲ開ク。午後二時予ハ先ヅ同地ヲ発シテ岩松へ帰リ、単身乗合自動車ニ投ジテ御槇村御内ニ到リ、同地小学校ニ於ケル演説会ニ出席ス。既ニ開会中ナル青年団応援弁士ノ後ヲ受ケテ、約一時間ノ演説ヲナシ、其内ニ来着ノ二神氏一行ニ引継ギテ、復、予ノミ先発ス。夜七時清満村岩渕ノ寺院ニ於ケル演説会ニ出席シテ、是亦二神氏等ノ来ル迄ヲ五十分間演説シ、九時岩松事務所ニ帰ル。十時半一行ト共ニ自動車ニテ出発、十二時前家ニ帰リタリ」。

2月15日は宇和島にいて、夜、演説しています。「夏繭四拾八袋ヲ売ル等業用ヲナシ、夜七時ヨリ大浦西光寺ニ於ケル二神派ノ政談演説会ニ出演シ、事務所へモ寄リテ、十二時帰宅ス」。

2月16日は北宇和郡二名村、好藤村に応援に行きます。「午後一時ヨリ二神候補、苜米地農学士、門田法学士等ト共ニ自動車ニテ二名村及ビ好藤村ノ演説会ニ赴ク。予ハ好藤ノ深田小学校ニテ演説ヲナシ、夜七時同所ヲ発シテ八時帰宇シタリ。本日前大蔵大臣勝田主計氏、二神氏応援ノ為メ来宇。午後六時ヨリ共楽座及融通座ニ於テ政談演説会ヲ開キタルガ、盛会ナリ。予ハ三間地方ヨリノ帰宇時間遅レシ為メ宇和島ノ分ニハ出演セザリキ」。

2月17日は北宇和郡三間村、成妙村、来村に応援です。「午前業用ヲナシ、午後二時ヨリ二神氏其他ト共ニ三間村宮ノ下及ビ成妙村成家ノ演説会ニ趣ク。予ハ宮ノ下劇場ニ於テ演説ヲナシ、夜七時帰宇。今夜来村ニ於テ五ヶ所ノ演説会ヲ開クヲ以テ、直チニ之ニ赴キ、予ハ並松集会所、川内寺院ニテ演説ヲナシ

タリ」。

2月18日は北宇和郡の海岸部の諸村、遊子村、下波村、蔣渕村に応援です。潮が引いて船が出ず、下波村を出たのは翌日の午前2時でした。ハードです。

「午前八時蔦屋ニ会シ、二神候補者及ビ大日本人造肥料会社ヨリノ応援弁士門田、吉田、島田ノ諸氏、二神憲吉、大岡鶴吉ノ兩人等ト共ニ発動機船紫丸ヲ賃シテ海岸部各村ノ遊説ニ趣ク。先ヅ遊子村矢ノ浦ニテ演説ヲナシ、聴衆百五十名。更ニ同村津ノ浦ヘモ渡リ、同所ヨリ大岡、島田等ノ一行ハ別レテ陸路下波、香崎ノ演説会ニ赴キ、予、二神候補者、門田等ノ四名ハ船ニテ蔣渕ヘ渡ル。赤崎鼻ヨリ矢ヶ浜ニ至ル間、風浪殊ニ高カリキ。午後二時蔣渕村ニ着シ、横浦寺院ニ於テ演説会ヲ開ク。来会者百名、閉会后、予ハ一寸清家ヘモ立寄りテ、直チニ船ヲ出シ、下波村柿ノ浦ニ到ル。予ハ七時ヨリ同所小学校ニ於ケル演説会ニ出席ス。聴衆二百名ニシテ、予ハ『産業立国論』ヲ演説シ、次デ二神氏ノ約一時間ニ亘ル演説アリ。十時過閉会。十一時一同船ニ帰りテ、出港セントスルニ、潮干キテ船動ク能ハズ。空シク潮ノ満ツルヲ待ツ」。

2月19日、投票の前日です。宇和島に帰ったのが午前4時半。少し寝て、再び選挙活動に向かいます。大変多忙です。

2月20日、投票日です。「衆議院議員選挙普選第一次ノ当日ナリ。午前十時第二投票所(商業学校)ニ行キテ、二神氏ヲ投票シタル上、選挙事務所ニ行ク。各候補者ノ事務員、運動員ハ有権者ノ出足ニ注意ヲ怠ラズ、緊張ノ気市中ニ満チ居タルガ、結局宇和島市ハ第一投票所(市役所)、第二投票所ヲ通ジテ、締切迄ニ六千参百十四ノ投票数ニシテ、全有権者数ニ対シ一割八分弱ノ棄権者アリキ。夜、実藤君方ニテ談ズ」。

2月21日、宇和島市部の開票日です。宇和島市では政友会の二神と民政の村松とは勢力伯仲でした。「午前十時二神選挙事務所ヘ行ク。市部ノミハ本日開票スルヲ以テ、運動員ハ市役所及ビ事務所ニ詰掛ケ、予想区々ナリシガ、十一時頃ニハ既ニ大勢判明シ、本日帰京ノ途ニ就ク。二神候補者モ事務所ニ来リテ、喜色溢ル、ヲ見タリ。午後二時市部ハ全ク終了。其結果二神駿吉第一区一四八

七、第二区一三七八、計二千八百六十五。村松恒一郎第一区一七一〇、第二区八四九、計二千五百五十九。外ニ清家吉次郎七百十九、佐々木長治七十七ニシテ、当市ヲ地盤トセル村松、二神両候補ハ勢力伯仲ト見ラレシガ、二神ノ方一般世人ノ予想以上ニ良好ナリキ」。

2月22日、郡部の開票日です。郡部では二神がトップ当選しました。「本日ハ郡部開票ノ日ナレバ、午前十一時ヨリ事務所ヘ行ク。開票所宇和支庁ヨリ各村別ノ情報時々刻々ニ到達シ、伝令ノ往復頻繁ナリシガ、一方他郡ノ開票モ各村別ニ相繼デ到リ、午後四時ニハ東、西、南各宇和郡ハ皆開票ヲ了ル。二神氏ハ南宇和郡ニテ優越的多数ナルト其他ヨリ推測シテ当選疑ナク、最初優勢ト見ラレタル佐々木氏ハ稍振ハズ。一般予想ハ村松、清家両氏ノ内一名落選ト思ハレシモ、北宇和郡ノ開票進ムニ連レテ、村松氏ノ優勢ナルコト順次明瞭トナリ、夜ニ入りテハ清家氏全ク落選ノ形勢トナレリ。追手通ノ事務所ハ内外ニ数百人ノ群衆時々刻々ノ票数報告ヲ待チ詫ビ、宇和支庁前モ亦多数ノ人々詰寄せ居タルガ、午後九時ニ到リテ北宇和郡ノ分モ全部開票ヲ了リ、其結果第三選挙区ヲ通ジテ二神駿吉氏（政）壹万六千九拾叁点ノ最高点ヲ以テ当選、尚村松恒一郎氏（民）壹万四千七百四拾叁点、佐々木長治氏（政）壹万四千貳百拾四点ヲ以テ夫々当選シ、清家吉次郎氏壹万叁千六百叁拾六点ニテ落選トナレリ。斯クテ二神氏ハ大正十三年以来ノ雪辱ヲ遂ゲタルガ、今回ノ如ク開票終結迄各候補者ノ点数相接近シテ、俄ニ勝敗ノ判明シ難カリシハ、稀ニ見ルノ激戦ト云フベシ。愛媛県第一区ハ須之内品吉（政）、岩崎一高（政）、高山長幸（政）ノ三氏当選シテ、武知勇記（民）、松田喜三郎（民）、成田栄信（中）等ノ諸氏落選シ、又第二区ハ河上哲太（政）、竹内鳳吉（政）、小野寅吉（民）ノ三氏当選、村上紋四郎（民）、小岩井浄（労）ノ二氏落選トナリ、当県ノ定員九名中政友会七名ヲ占メ、民政党ハ二名ニ過ザルニ到レリ、予ハ午後九時半事務所ヨリ帰宅ス」。

以上、亀太郎らの奮闘の結果、二神は初当選しました。愛媛県では定員9名中7名までが政友会の当選で、民政党は2名に終わり、政友会の大勝でした。ただ、全国的には、政友会218名、民政党217名、無産政党8名、実業同志会

4名等々となっており、政友会は過半数を取れず、辛うじて第1党を保っただけでした。

亀太郎は、この選挙活動で疲れたため、2月24日の夜から発熱し、38度の熱を出し、27日まで寝込んでいます。

(2) 市議としての亀太郎

亀太郎は山村派の市会議員として山村市長を支えています。3月17日から宇和島市会（昭和3年度予算関係）が開催されました。

3月17日、市会で市の予算案を審議しています。「午前九時ヨリ市会ニ出席ス。予算市会ニシテ、昭和三年度歳出入予算及ビ特別会計ノ各予算等重要案件提出セラレタルガ、本日ハ一般予算ノ第一読会ニテ、午後二時閉会。夫レヨリ薦屋ニ会シテ、同志議員ト議案ノ審査ヲナシ……」。

3月18日も同様です。「十一時ヨリ同志市会議員ト薦屋ニ会シテ、夜ニ入ル迄予算ノ審査ヲナシタリ」。

3月19日、市会で政友会派を代表して発言しています。「十一時ヨリ市会ニ出席ス。午後四時迄ニ第一読会ヲ了リテ散会。夫レヨリ学校増築、高等小学科単置問題ニ関シ、同志議員ヲ代表シテ、市長ニ交渉スル所アリ。其結果一同薦屋ニ会シテ協議シ、穴戸君ノ強硬ナル反対アリタレドモ、遂ニ原案ニ少修正ヲ加ヘテ大体単置ヲ認ムルコトニ内議一決シタリ」。

3月20日、予算の修正案を亀太郎が提案し、可決しています。「午前九時ヨリ市会ニ出席ス。……市会ハ予算案ノ第二読会ニシテ、予ヨリ役所費及ビ教育費ニ於テ修正案ヲ提出シ、多数ヲ以テ通過ノ上、午後三時散会」。

3月21日、市会の最終日です。「午前九時ヨリ市会ニ出席ス。予算案歳入ノ第二読会ニテ、家屋税附加税、営業収益税附加税ノ軽減ヲ同志議員側ヨリ提出シ、修正案通過ス。午後第三読会及ビ別号各議案ヲ終了シ、一二ノ建議案ヲモ議決シテ、三時半全ク議事ヲ了リ、市長ノ挨拶アリテ予算市会ノ閉会ヲ告グ。夜、丸水ニ於ケル市長主催ノ市会議員慰労会ニ出席シタリ」。

この時期、宇和島市政の最大の問題は、市の商工業の発展の長年の癌となっていた須賀川の問題でした。須賀川は年々大量の土砂を宇和島湾に流し込み、港の働きを妨げていました。そこで、山村市長は、昭和3年4月30日、市会において、須賀川付替工事を断行したい旨の表明を行い、そして、市役所に須賀川付替の委員会がつくり、不退転の決意で、着々準備を進めていきました。亀太郎も、この委員会に参加し、山村市長を支えていくことになりました。

5月21日の日記に「午後一時ヨリ市役所ニ於ケル須賀川附替ノ委員会ニ出席シテ、市長ヨリ計画ノ大綱ヲ聴キ、近日調査資料ヲ各委員ヘ配布スルコト、ナリテ、三時半閉会ス」。また、6月23日の日記に「午後三時ヨリ鳶屋ニ於テ山村市長及ビ同志議員ト会合、須賀川附替ニ関スル意見ヲ交換シテ後、夕餐ヲ共ニス」等の記事があります。

須賀川付替に伴う最大の問題は、新しく川裾になる大浦地区の住民への犠牲及び川筋の変更に伴う和霊町にある北陽花街の移転問題でした。山村市長は市の公益上やむを得ないと、反対意見を説得して計画を進めていきました。

(3) 県議としての亀太郎

第108回通常県会（昭和4年度予算案等）が、天皇即位の大礼（昭和3年11月10日）にあわせて、11月8日に招集・開会されていますが、実際の県会は11月20日から開催されました。県会は政友会が多数派で、県当局も政友会系知事の市村慶三です。

亀太郎は、11月20日の午後に上松しています。この日の県会には出席していません。11月20日の再開県会で、政友会内部の議長任期の内約にもとづき、議長が越智から清家俊三に交代しています。11月20日の日記に「予ハ二時半ノ中央自動車ニテ八幡浜ヲ発シ、松山ニ到ル。六時半到着。城戸屋ニ入レリ。県会ハ御大典ノ休会后、本日始メテ開議シ、越智議長辞任シテ、清家俊三君新ニ当选ノ由」とあります。

11月21日、22日には、亀太郎は政友会メンバーと議案を検討し、県会に出

席し、またその後も議案の検討をしています。

11月23日の県会では、亀太郎は土木費について質問しています。「午前梅廻家ニ会シテ後、一同県会ニ臨ミ、十一時ヨリ開会ス。土木費ノ款ニテ、予ハ県道路面ノ頽廃ト之ガ修繕方法ニ就テ質問スル所アリ。斉藤内務部長及ビ中山土木課長ノ答弁アリタリ。午後〇時半閉会。四時迄又梅廻家ニ会シ、帰宿後清家吉次郎君、門田普君ト棋ヲ囲ム」(11月23日)。

11月24日の県会では、亀太郎は家政女学校のことについて意見を述べています。「朝九時半ヨリ梅廻家ニ会シ、十時半ヨリ県会ニ出席ス。教育費ノ議事中、予ハ家政女学校等ニ就テ意見ヲ述ブ。十一時五十分閉会」(11月24日)。

11月25日は日曜日で、碁をしたり、相撲見物をしています。

11月26日は、県会に出席しています。

11月27日の県会では、亀太郎は勸業費中共同繭出荷組合補助金について意見を述べています。「午前十一時ニ県会ニ出席ス。勸業費ニ於テ、予ハ共同繭出荷組合補助金支出ノ乾繭取引奨励ノ本旨ニ副ハザル所以ヲ力説シ、斉藤内務部長ノ答弁アリ。午後〇時過閉会トナリ。一同梅廻家ニ会シテ議案ノ審査ヲナス」

11月28日は八幡浜に行き、製糸業組合の総会に出席し、夜、宇和島に帰っています。

11月29日は家で生糸の出荷等をしています。

11月30日に自動車で再び上松しています。

12月1日は、再び県会に出席しています。「梅廻家ニ会シ、又議場ニ出席スルコト常ノ如シ。午後六時ヨリ北宇和郡三浦村長ノ同郡選出議員清家、赤松、芝三君ヲ梅廻家ニ招待スルニ就キ、予モ之ニ列リ後、和田、辻両君ト共二月の家ヘ二次会ヘ行キテ、十一時帰宿シタリ」(12月1日)。

12月2、3日は病気(急性腸カタル)にかかり、県会を休んでいます。「先日来感冒ノ気味アリテ、稍軽快トナリ居タルニ、前夜食傷シタルモノカ、朝来発熱甚シク数回ノ下痢アリ。終日旅館ニテ臥辱ス。為メニ本日催サル、政友支部大会其他ノ宴会ニモ出席セズ。午後鎌田医師ノ来診ヲ受ケタルガ、体温三十八

度五分アリテ、急性腸加答児トノコトナリ。殆ド絶食シテ、下剤ヲ服用ス」(12月2日)、「夜中数回ノ下痢アリテ後ハ、稍堪ヘ易クナリタレドモ、少シク嘔吐ノ気味アリ。本日モ医師ノ来診ヲ受ケテ整腸剤ノ服用ヲ続ク」(12月3日)。

12月4日は病気がやや回復し、県会に出ています。「稍軽快ナルヲ以テ、午前十時半努メテ起床シ、県会ニ出ヅ。十一時開会。三津港湾ノ継続補助費等重要案決了シ、宇和島港湾補助本年度支出額等モ皆々通過シタレバ、歳出ハ殆ド議決済トナレリ。午後一時散会。少時梅廻家ニ会シテ後、予ハ県庁ヘ行キテ、警務課、保安課、工場課、庶務課ヲ訪ヒ、各課長ニ面談シテ所用ヲ弁ジテ後、太田蚕糸課長ト共ニ内務部長ニ面会シテ、蚕種製糸家営ニ就キ諒解ヲ得ル所アリ、四時帰宿ス。夕方親泊庶務課課長来訪」(12月4日)。

12月5日は病気ほぼ完全回復し、県会に出席しています。

12月6日は県会の最終日です。亀太郎は昭和4年度歳入予算中の雑種税のうち、観覧税が新設されていることに対し、観覧税の対象の大部分は活動写真であり、その入場者は大分無産階級であるとして、新設は遺憾である、本来なら削除すべきだが、すでに歳入に相当額見込んでいるので、一部修正にとどめるとして、免税点を原案の15銭から25銭に引き上げる修正動議を提案しています⁵⁾。そして、その動議が可決されています。芝居好きの亀太郎ならではの提案です。「午前梅廻家ニテ協議ノ上、県会ニ出席ス。十一時半開会。県税賦課規則改正案ヲ議スルニ当タリ、予ハ新設観覧税ノ不可ナル所以ヲ論ジテ、免税点引上げノ修正動議ヲ提出シ、大多数ニテ通過確定議トナル。続テ歳入各款ノ残ヲ議シ、諸議案全部議了ノ上、午後一時閉会。市村知事ノ閉会ノ挨拶アリテ、一同退出シタリ。乃チ予ハ一旦宿ヘ帰リテ、帰宇ノ準備ヲ整ヘ、道後ヘモ往復シタル後、二時過政友会議員ノ会食ニ梅廻家ヘ行キテ、程ナク帰宿。三時松山発ノ自動車ニテ、城戸屋ヲ辞シ、宇和島ニ向フ。八時無事帰宅セリ」(12月6日)。

以上、亀太郎は、県会の途中病気になりましたが、この県会でしばしば発言

5)『愛媛県議会史 第四巻』448～450頁

し、特に観覧税問題では、免税点を引き上げるなど積極的役割を果たしていたことがわかります。

第3章 昭和4年の亀太郎

(1) 市議としての亀太郎

宇和島市会の最大の焦点は、須賀川付替問題でした。山村市長は須賀川付替の予算案を作成し、昭和4年2月8日、袋町の三間屋新館で山村派の市会議員を集めて説明しています。予算総額は81万円。2月8日の日記に「午後一時ヨリ同志市会議員ト蔦屋ニ会シ、五時ヨリ山村市長ノ須賀川附替予算内示会ニ三間屋ニ出席ス」とあります。

2月15日、市会の前日です。亀太郎らは蔦屋で打ち合わせをし、亀太郎がリーダーとなることを決めています。「午後五時ヨリ蔦屋ニ於テ同志市会議員ヲ会シ、明日上程セラルベキ須賀川附替案ニ対スル打合ヲナス。予ハ進行係トシテ議員ヲ統ブル筈ナリ」(2月15日)。

2月16日、全市民注目の市会が開催されました。市民も多数傍聴に来ました。山村市長が市会で須賀川付替計画の説明をしました。それに対し、反対派の民政派の議員、溝口正文、国松福祿、山口藤一、三好直英、佐々木饒が代わる代わる登壇し、反対意見を述べ、また、それに対抗し、久留島豊、高島亀太郎らが賛成意見を述べ、特に亀太郎は何度も発言しています。長時間にわたる審議の後、反対派6名—民政党—が退場し、残り23名の賛成により須賀川付替計画が「満場一致」可決されました⁶⁾。この日の市会の状況が日記に詳しい。「午前九時市会ニ出席ス。本日ハ市ノ大問題タル須賀川附替ノ予算案ヲ附議スルヲ以テ、傍聴者早朝ヨリ詰掛ケテ忽チ満員トナリ、議員モ中川君ノ他全部出席、議場緊張ス。九時四十分開会。先ヅ山村市長ヨリ須賀川附替ノ計画ニ就テ詳細ナル説明アリ。賛否両派議員ヨリ質問及討議アリテ、議事ハ夜ニ入ル迄継続シ、予モ

6) 『山村豊次郎伝』230頁

其間ニ賛成及議事進行ニ関スル意見ヲ数回発言ス。採決ノ結果、廃案説六名、委員附托説四名ニ対スル十八名ノ多数ヲ以テ第二読会ニ入り、続テ質問応答アリ。結局中途退席者以外ノ二十三名ハ満場一致ヲ以テ原案ヲ可決ス。八時二十分閉会。之ニテ多年ノ懸案タリシ須賀川附替ハ解決ヲ告ゲ、直チニ事業ニ着手シ得ルコト、ナレリ。散会後同志議員ハ丸水ニテ懇親会ヲ開キ、十時過家ニ帰りタリ」(2月16日)。

また、3月に開かれた予算市会(昭和4年度の予算案等)でも、亀太郎は山村市長を支え、奮闘しています。3月4日「三時ヨリ鳶屋ニ於ケル同志市会議員ノ予算審査会ニ出席シタリ」。3月5日「十一時半市役所へ行キテ、本日ヨリ開カレ居ル予算市会ニ出席シ、午後四時半閉議。帰途一寸鳶屋ニ於ケル議員会合ニ出席シテ、六時前帰宅ス」。亀太郎は3月5日の夜、船にて上松し、翌6日は松山で仕事をし、7日の朝松山を自動車で発ち、宇和島に帰り、直ぐ市会に出ています。3月7日「午前八時ノ自動車ニテ、松山城戸屋ヲ発シ、大洲中継、午後二時宇和島ニ帰着。直チニ開会中ナル市会ニ出席ス。五時閉議、尚同志議員ト市長増俸ノ件等ヲ打合セシテ、六時帰宅シタリ」。3月8日「午前九時半市会ニ出席ス。終日審議ノ結果、昭和四年度予算其他ノ諸議案ヲ全部議了シテ、午後四時閉会トナル。六時ヨリ市長主催ノ議員慰労会ニ丸水へ行キ、帰途松田君、岡田君等ト福田医院へ寄りテ碁ヲ囲ミタリ」。

以上のように、亀太郎はこの年も、山村市政を支える中心的柱として活躍していたのでした。

(2) 県議としての亀太郎

昭和4年(1929)7月2日、田中義一政友会内閣は、前年の張作霖爆殺事件で天皇の信任を失い、総辞職しました。そして、同日、浜口雄幸民政党内閣が誕生しました(大蔵大臣には井上準之助、外務大臣は幣原喜重郎)。この民政党内閣は、対中国外交の転換、軍縮、財政緊縮、金解禁などを打ち出し、それまでの政友会内閣の政策転換を図りました。

野党に転落した政友会は、民政党内閣を激しく攻撃します。愛媛県でも、7月11日、県下の政友会のメンバーが松山に集まり、民政党内閣の政策に反対の集会を開きました。亀太郎もこの集会に参加し、演説もしています。日記に「朝六時赤松勲、久留島豊ノ両君ト共ニ自動車ニテ出発シ、松山ヘ向フ。十一時着。梅廼家ニ於ケル政友会支部幹事会ニ出席シ、昼食後更ニ同所ニテ開カル、党務員会ニ列ス。来会者県下ノ政友会員二百余名ニシテ、現内閣ノ政策ニ反対ノ決議ヲナシ、後、宴会ニ移リテ、数氏ノ席上演説アリ。予モ一席弁ジテ六時散会、帰宿ス。夜八時ヨリ齊藤内務部長ノ送別会ニ梅廼家ヘ行キ、九時半城戸屋ヘ帰り、後、又道後銀水ヘ行ク」(7月11日)とあります。

9月10日には、宇和島で南予政友倶楽部の総会を開き、そこでも、民政党内閣批判を行っています。「二時ヨリ三間屋ニ於ケル南予政友倶楽部ノ総会ニ出席ス。予等数名ニテ宣言、決議等ヲ起草、浄書シタル上、四時開会。出席者三百名ニシテ、予、開会ノ辞ヲ述べ、二神、佐々木両代議士及ビ山村、清家諸氏ノ演説アリ。現内閣反対ノ気声ヲ挙ゲテ、盛会裡ニ七時半散会ス」(9月10日)。

11月14日に、松山にて四国政友会大会がありました。犬養毅政友会総裁ら多数の幹部がやって来ました。亀太郎は病気のため、上松していません。しかし、その幹部の一人三土忠蔵前大蔵大臣が、11月16日、宇和島に遊説にやって来たときの融通座での演説会には参加しています。「午前業用ヲナス。午後蔦屋ヘ行キテ、南予政友倶楽部ノ人々ト共ニ政友会遊説員トシテ来宇スル前大蔵大臣三土忠造氏ノ一行ヲ迎へ、演説会場融通座ヘ行ク。聴衆満員ニシテ、三土氏、二神代議士、桑山前逋信次官、内野中将等ノ演説アリ。九時ヨリ丸水ニ於テ一行ノ歓迎会ヲ開ク。十時半散会帰途堀部健雄君ト遇ヒ、共ニ北陽二葉ニ遊ブ」(11月16日)。

11月22日、第109回通常県会(昭和5年度の予算案審議)が開催されました。県知事は民政派系の木下信です。県会は知事が予算編成方針を述べた後、27日まで休会し、28日から再開されました。亀太郎は、28日の県会で登壇し、県当局の緊縮予算・勸業費削減を批判しています。「九時ヨリ梅廼家ニ於ケル政友会

支部ノ議員協議ニ列シ、対県当局策ヲ議シテ、昼食後一同議事堂ニ臨ム。午後一時開会。昭和五年度予算案ノ第一読会初日ニシテ、清家吉次郎君、近藤金四郎君ノ質問ニ次デ、予、登壇、緊縮予算ノ勸業費縮少ニ就テ質問演説ヲナシ、赤土内務部長ノ答弁アリ。二時半閉会帰宿ス」(11月28日)。亀太郎の批判の概要は、今日、農村は疲弊し、また、松山・今治・宇和島の都市もまた疲弊している、そのような時に緊縮により産業の補助金を削減することは、實際を知らないものである、などというものでした⁷⁾

11月29、30日も、梅廻家で政友会の議員と協議し、県会に出席しています。

12月1日は日曜日で、県会は休みで、伊予新報社の新築祝いに駆けつけています。

12月2日は、政友会が多数を背景に県会を流会させています。「午前十時梅廻家ニ会シテ協議シ、本日ハ一同議場へ行カズシテ流会トシ、県蚕糸課、農商課ニ行キテ議案調査ヲナシタリ。午後道後一浴ノ上、赤松勲君ノ宿所タル大和屋本店ニ寄り、芝直由君ト共ニ石手寺及ビ岩堰へ散歩ス。夜、赤松、芝、桂ノ三君ト共ニ道後公園かき船ニテ夕食ヲ共ニシ、九時帰宿セリ」。

12月3日の県会では、政友・民政の両党が激しく対立しました。亀太郎も登壇し、論陣を張りました。「午前十時ヨリ梅廻家ニ会シテ、県会ニ臨ミ、十時半開会ス。第一読会ノ続キナルガ、民政党ノ武智勇記、松田喜三郎両氏ノ全解禁無影響論ニ対シ、予、登壇。酷シク駁撃ヲ加ヘ、傍聴席ノ拍手歇マズ。頗ル気声ヲ揚ゲタリ。十二時半閉会、午後モ梅廻家ニ会議シ、三時県庁ニ高橋社寺課長ヲ訪フ。夜、道後銀水ニ遊ビテ、十二時帰宿セリ」。

12月4日の県会で、亀太郎は宗教取締細則について質問しています。「午前九時過県会計課へ行キ、又梅廻家ニ会シテ後、十時ヨリ県会ニ出席ス。先般発布ノ県令宗教取締細則ニ就テ質問ヲナシ、高橋課長ノ答弁アリ。十二時半閉会トナル。午後モ梅廻家ニ会シテ、議案ノ審査ヲナシ、夕方道後ニ一浴ス。夜、救

7) 『愛媛県議会史 第四巻』491頁

世軍ノ人、宗教取締県令ノ件ニテ来訪。後、道後川吉旅館へ行キテ、鈴木富士太郎君ト碁ヲ打チタリ」。日記中、救世軍とは、キリスト教プロテスタント派の一派です。

12月5日は県会の後、3日間の休会により、亀太郎は宇和島に帰っています。

12月6日から8日にかけては、宇和島で家業をしたり、田中実馬の病氣見舞いをしたり、南予蚕業大会に参加したり、山村市長と会談したりしています。そして、9日の午後再び、県会出席のため、船にて上松しています。

12月10日の朝、高浜に着き、県会に出席し、亀太郎は理髪試験について発言しています。「午前六時高浜ニ上陸シ、自動車ニテ松山へ至リ、城戸屋ニ投宿ス。九時ヨリ梅廻家ニ会シテ、十時過県会ニ出席。予、理髪試験ニ就テ述ブル所アリ。十二時過閉会トナル。午後モ梅廻家ニ集リテ、議案修正ノ根本方針ヲ協議シ、四時散会。夜、宿ニテ清家君ト碁ヲ囲ム」。

12月11日も県会に出席しています。「午前例ノ如ク梅廻家へ会シテ、県会ニ出席ス。十一時開キ、正午過閉ヅ。赤松君ト共ニ土木課長ヲ訪ヒ、昼食後工場課長ニ面会シテ、製糸操業短縮中ノ休業手当ニ就テ陳述ス。夜、梅廻家ニ於ケル政友会支部主催ノ議員招待会ニ行キ、後、大街道ヲ散歩シテ、クリスマス贈物ヲ買入レ、宇和島メソヂスト教会へ送ル」。

12月12日の県会では、亀太郎は勸業費予算中蚕糸関係について質問演説をしています。「十時梅廻家ニ会シ、又蚕糸課ノ訪ヒ、十時四十分県会ニ出席ス。議事ハ勸業費予算ニシテ、蚕糸デーノ観アリ。予ハ蚕品種、生繭正量取引、検定所設備、出荷補助等ノ諸問題ニ就テ質問演説ヲナシ、太田課長ノ答辞アリ。正午過閉会ス。午後梅廻家ニテ予算修正ノ審議ヲナシ、三時清家、赤松、芝、桂等北宇和選出議員ト共ニ、昨今来松中ノ三浦村長、下波村長、九島村長ト共ニ土木課長ヲ訪ヒテ、海岸道路ノ急施ヲ陳情ス。夜、右ノ三村長ニ招待セラレテ、赤松君等ト共ニ梅廻家ニ行キ、帰後來松中ノ山村氏ト碁ヲ囲ム。十時ヨリ道後銀水へ行キタリ」。

12月13日には、県会出席後、政友会松山部会の総会に出席し、演説し、拍手

喝采を受けています。「十時半県会ニ出席シ、十二時閉会。午後一時ヨリ国技座ニ於ケル政友会松山部会ノ總會ニ列席ス。近ク行ハル、松山市会議員選挙ノ準備ニシテ、満場ノ入場者アリ、盛会ヲ極ム。予モ県会議員トシテ乞ハル、俛ニ一場ノ演説ヲ試ミタルガ、喝采ヲ博シ、論旨適切ナリトノ評ヲ得タリ。四時閉会。夜、清家、赤松、宮田、和田ノ諸氏ト共ニ同座ニ於ケル高木新平一派ノ剣劇ヲ看、後、月の家へ行キテ共ニ談笑ス」。

12月14日の県会では、亀太郎は蚕病予防取締について発言しています。「午前十時ヨリ梅廼家ニ会シテ、十一時議場ニ臨ム。本日モ勸業費ノ続キニシテ、予ハ蚕病予防取締ニ就テ警察部長ニ希望ヲ述ブ。十二時半閉会」。そして、その後、八幡浜に行き、製糸同業組合長の摂津静雄に会いにいき、製糸業操短について協議しています。

12月15日には宇和島に戻り、田中実馬（医師）の葬儀に参列し、16日は家業を行い、17日に再び県会出席のため、上松します。「午前七時ノ中央自動車ニテ出発、松山へ赴ク。正午着松。城戸屋ニ入り、直チニ梅廼家ニ会ス。二時来松ノ摂津、枅田両氏ト共ニ蚕糸課へ行キ、又工場課長ヲ訪ヒテ操短休業手当問題ニ就キ談ジ、更ニ安原警察部長ニ面会シテ陳情スル所アリ。夕方道後ニ一浴ノ上、六時ヨリ梅廼家ニテ催サル、議員側主催ノ知事以下参与員招待会ニ出席ス。後、和田、芝、桂ト共ニ月の家へ二次会ニ行キテ、十二時帰宿シタリ」。

野党の政友会は、県会での多数を背景に、議会で県当局の緊縮予算を批判・糾弾するかたわら、予算案の修正案を立案し、12月15日頃から県当局と強力に交渉しはじめていました。16日には、午前の開会を中止し、午後には政友会派の議員のみで開会を強行したり、17日には僅か20分で閉会したり、18日には流会させたりしています。そして、その結果、18日の夜、ついに県当局に2万円余りの予算修正に応じさせています。12月18日の日記に「午前九時過ヨリ梅廼家ニ会ス。修正案ニテ県当局トノ交渉未解決ノ為メ開会ニ到ラズ。正午製糸組合ノ用件ニテ、摂津、枅田両氏ト大谷ニ会合シタル外、終日梅廼家ニアリ。六時漸ク交渉纏リ、二萬円ノ増額修正ニテ当局ト妥協スルコトニ決ス。夜、う

つぽニテ、桂、芝、清家ノ諸君ト会食シタリ」とあります。

12月19日の県会では、冒頭、亀太郎が登壇し、日程変更の動議を提案し、そして、亀太郎は、糸価安定融資補償法の適用を農林大臣に求める意見書の提案を行っています。それは、近来生糸価格暴落し、当業者は困難を極め、農村は疲弊し、地方財界の打撃はその極に達しているというものです。この提案は民政党の同意も得て、満場一致可決されています⁸⁾。また、亀太郎は宇和島高等女学校試験問題漏洩事件についても質問しています。日記に「午前九時梅廻家ニ会シ、十一時県会ニ行ク。十一時二十分開会劈頭日程ヲ変更シテ、予ノ提出ニ係ル糸価安定融資補償法ノ適用ヲ農林大臣ヘ要望ノ意見書ヲ附議シ、予、登壇説明ノ上、満場一致ヲ以テ可決確定議トナル。次デ予算案ノ教育費ヲ議シ、最近出来シタル宇和島高等女学校試験問題漏洩事件ニ就テ、赤松勲君及ビ予ノ兩名ヨリ質問、希望ヲナシ、常賀学務部長ノ答弁アリ。十二時半閉会。午後二時過迄梅廻家ニテ修正案ノ決定額各款配分方ヲ審議シ、尚予ト赤松君トハ県庁教育課訪問、更ニ学務部長ニ面シテ、宇高女実施調査方ヲ交渉シ、明日林視学官ヲ出張セシムルコトニ決定ス。又予ハ他ノ用件ニテ農商課長、警務課長、水産課長、蚕糸課長ニ面会シテ、夫々所要ヲ弁ジ、高等課ヘモ寄りテ三時四十分帰宿」とあります。

12月20日、県会最終日の前日です。政友会は多数を背景に土木費予算の使途明示の意見書を可決し、知事に交渉に行っています。

12月21日県会の最終日です。県会の副議長大本貞太郎(政友会)の予定の辞任に伴い、後任選挙が行われました。予定通り、亀太郎が副議長に選出されています。日記に「二時半開会。土木建議案ニ対スル知事ノ説明アリテ後、残り諸議案ヲ議了シ、四時十六分休憩トナル。四時二十五分再開議ノ上、選挙ヲ行フ。副議長大本貞太郎君昨日辞表提出ニ就キ、知事ヨリ選挙命令出デ、投票ノ結果、投票総数三十六票、予二十六票ヲ以テ副議長ニ当選ス。次点八十票ノ黒

8)『愛媛県議会史 第四巻』533～534頁

河順三郎君（民政）ナリ。次デ名誉職参事会員ノ改選ヲナシ、開票ノ結果、大野助直、芝直由、槇塚、越智（直）、近藤、池田、日野、清家（政）、鈴木、山下ノ十氏当選ス。続テ補充員ノ選挙ヲ行ヒテ、原、森実ノ諸氏当選ス。即チ、予登壇、副議長就任ノ挨拶ヲナシ、拍手裏ニ降壇。四時四十六分閉会ス。知事ヨリ閉会ノ挨拶アリテ、参与員、議員共互ニ別ヲ告ゲテ散会ス。政友会議員一同ハ梅廼家ニ帰リテ、夕食ヲ共ニシ、後、赤松、桂、芝、和田ノ諸氏ト月の家ヘ二次会ニ行キテ、九時半帰宿シタリ」。

以上、長い県会が漸く終わりました。亀太郎はこの県会ではしばしば登壇・発言し、活躍していることが分かります。そして、ついに12月21日、政友会の支持を得て、県会副議長に就任したのでした。